

経営探訪

株式会社中央モータース

”自動車“のある生活を支える
地域とともに発展を

株式会社中央モータース
スズキアリーナ本荘

〒015-0852
秋田県由利本荘市一番塚168
TEL. 0184-22-2033
FAX. 0184-22-8633
<https://www.suzuki.co.jp/dealer/05205001/>

●設立/1954年 ●従業員数/15名
●資本金/1,000万円
●業務内容/新車・中古車販売、自動車整備、
保険サービス業

代表取締役社長
佐藤 秀典
さとう ひでのり

MANAGEMENT REPORT

地域とともにある“クルマ屋”

株式会社中央モータースは1954年に旧本荘市で創業して以来、車両の販売と修理を続けている地域に根差した“クルマ屋”だ。

「当時は二輪や四輪、メーカーの区別なく“車”と名のつくものを扱っていましたが、時代の変遷とともにスズキの専売店となりました。スズキ車に関しては、技術的なことも含め熟知していると自負しています」と語るのは二代目の佐藤秀典社長。同社はメーカー直営ではない副代理店という位置付けで、その実績を「スズキ副代理店ゴールド店」として認定されている。

「近江商人に倣い、“売り手よし、買い手よし、世間よし”の三方良しを心掛けています。この地域では車は生活のための必需品です。時代と共に車齢が伸びているので、しっかりと整備を行い、安心して、安全に車に乗ってもらうという“当たり前”を維持するのも私たちの仕事です」。

地域社会との繋がりを大切に、顧客に寄り添ったきめ細やかなサービスを提供する同社への信頼は厚く、三世代にわたって利用する顧客もいる。

新設備で働きやすい環境を

2019年に65周年を迎えた同社では、道路拡張工事により社屋と工場の建て替えが必要となったことをきっかけに、地元の商工会に相談しながら、新しい事業計画の策定に取り組んだ。同社担当の経営指導員となった由利本荘市商工会の佐藤明主査は、収益性の高い整備部門の刷新と働き方改革に着目し、生産性向上のため、補助金を活用して新設備を導入することを提案。新しい事業計画のもと2020年12月に新工場が竣工した。

「以前の工場を建てた当時は、車をリフトで上げることを想定していなかったため、工場の天井が低く、リフトを導入してからも車体を十分に持ち上げることができなかった。つらい姿勢での作業が多く、リフトが旧式のため作業者が何度も乗り降りする必要もありました」。

作業者の肉体的な負担軽減と労働時間短縮を目指し、新工場では最新設備を導入し、専門家に相談しながら、動線に無駄がないようにレイアウトを工夫した。車検の所要時間が16%削減されるなど、その成果は数値となって表れている。また、同社では以前

から、学校行事や家族の体調不良時などの休暇や早退に柔軟に対応していたが、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画も策定したことにより、さらに働きやすい環境を整えた。

「佐藤社長は、もともと10年先を見据えた事業計画をしっかりと持っていました。現場の意見を取り入れながら作られていた計画を、整理し明文化したことで、経営方針や考え方が社員に伝わりやすくなり、現場の士気高揚にもつながっていると思います」と佐藤明主査は太鼓判を押す。



車のある日常を支えるために

新工場に続き、今年3月に新ショールームをオープンした同社では、スズキの前会長が全国に広めた産直イベントである「軽トラ市」の開催や、タイヤ預かりサービスなど、地域に開かれた“クルマ屋”としてさまざまなアイデアを計画中だ。その実現のため、雇用拡大と人材育成にも力を入れていきたい、と佐藤社長は意欲を見せる。

「最盛期に26名だった社員は現在15名で、業務をカバーし合いながら何とかやっている状態です。3年前に若手の整備士がUターンで入社しましたが、世代交代を見据え、もっと多くの若手を採用し育てていく必要があると感じています。お客様の役に立ち、適正な利益を得て雇用を生みながら商売を続けていくことが、地域経済の循環と地域の発展に繋がっていくと思っています。高齢化が進むなか、車とともにある当たり前の日常を支えるために、“地域のクルマ屋”が果たすべき役割やできることを常に考え、挑戦していきたいです」。